

山田みやこの活動報告

令和2年7月20日(月)

鹿沼市のスマート農業を活用した大規模水田経営を視察

農林環境委員会においてスマート農業を活用した大規模水田経営について鹿沼市の「株式会社 農業生産法人ワタナベ」を視察。

代表 渡邊 宏幸氏

花き(観賞用草花)と水稻経営の後継者として経営に参画後「美しい水田を次世代に引き継ごう」を企業理念のもとに土地利用型農業を展開。

機械を使った作業が主で、トラクター6台・田植え機8条・コンバイン4台・乾燥機7台・乾燥調製施設・育苗施設などを装備し、スマート農業技術を活用している。

〈スマート農業のメリット〉

- 圃場管理がデータとして記録するためミスがない
- 水管理の遠隔操作で労力が軽減
- 精密な機械稼働により肥料・農業の軽減
- 正確な播種や植え付けにより管理がしやすい

〈スマート農業の課題〉

- 初期費用が高額
- 専門知識や技術の習得が必要
- ランニングコストがかかる
- 効率よくするために大区画圃場の再整備が不可欠(高低差がある圃場の再整備・地権者の同意が困難なところもある)

〈今後の展望〉

- 経営者の高齢化で耕作できない圃場が増加し、農地の集積が加速すると予想されるため施設の整備が求められる
- 従業員を育てながら経営を拡充する、当面は100ヘクタールを目標
- 関連機器の効率的活用をする、経営計画の実行

農薬散布ドローン



スマートホンでの圃場管理システム

圃場枚数 263枚

(100を超えてくると覚えてられなくなりパソコンなどで管理が始まった)



圃場地図



圃場ごとのデータ管理

12

最新の自動操舵



自動操舵(田植機)



14